



所内
オ一回写真コンクール
地質部
参加作品
「海蝕台」
木野義人

海蝕台

山地が沈水して沈降海岸をつくると、一般に山の急斜面が直接海にのぞみ、波浪の侵蝕をうけて海蝕崖を生ずる。種々の地質的・地形的条件がそなわつておれば、侵蝕作用の進行にともなつて海蝕崖が後退する一方、崖下には海面すれすれに平坦な海蝕台が形成され、漸次その幅を増して行く。

写真は南九州の日南海岸に発達する海蝕台の一部を海蝕崖上から見たもので、新第三紀に属する砂岩・泥岩互

層や、その走向をほぼ直角にきる断層などが明瞭に観察される。ここでは海蝕台の幅が200m以上に達する所もあつて、その一部は満潮時においてもなお水面上にあらわれ、ごく新しい地質時代において相対的に地盤が隆起したことを示しており、現在も盛んに波浪の侵蝕作用をうけている。すなわち、奇岩・奇勝として当地を訪れる人々の目を見張らせるこの海岸地形は、ただに神話と伝説をかたるのみでなく、地質時代の悠久の歴史をも秘めているのである。

地質調査所月報

(才6巻 才9号)

報 文

- 尾原 信彦 : 京都府高山堰提地点地質調査報告
 徳永 重元 : 北海道石狩炭田空知地区美唄地域における主要炭層の花粉分析報告
 本島 公司・石和田 靖章・牧 真一・川野 昌樹 : 秋田県黒川油田地化学調査報告
 松田 武雄 : 秋田県横手地区重力探査報告

地質調査報告

- No. 165 北海道支所探鉱課 : 北海道のチタン資源
 No. 166 本島 公司・伊田 一善・牧野 登喜男・三梨 昂 : 静岡県庵原郡高部村附近天然ガス調査報告

(才6巻 才10号)

地 熱 号

- 大分県野矢地熱調査報告
 大分県地熱地帯の電気・放射能・地化学研究調査報告
 鹿児島県霧島地区地熱地帯調査報告
 長崎県雲仙地熱地帯調査報告
 宮崎県海老野地熱地帯調査報告

地 質 図 幅

- 1 : 50,000 「須 坂」 (説明書付)
 「平 戸」 (説明書付)
 1 : 75,000 「塩 原」